

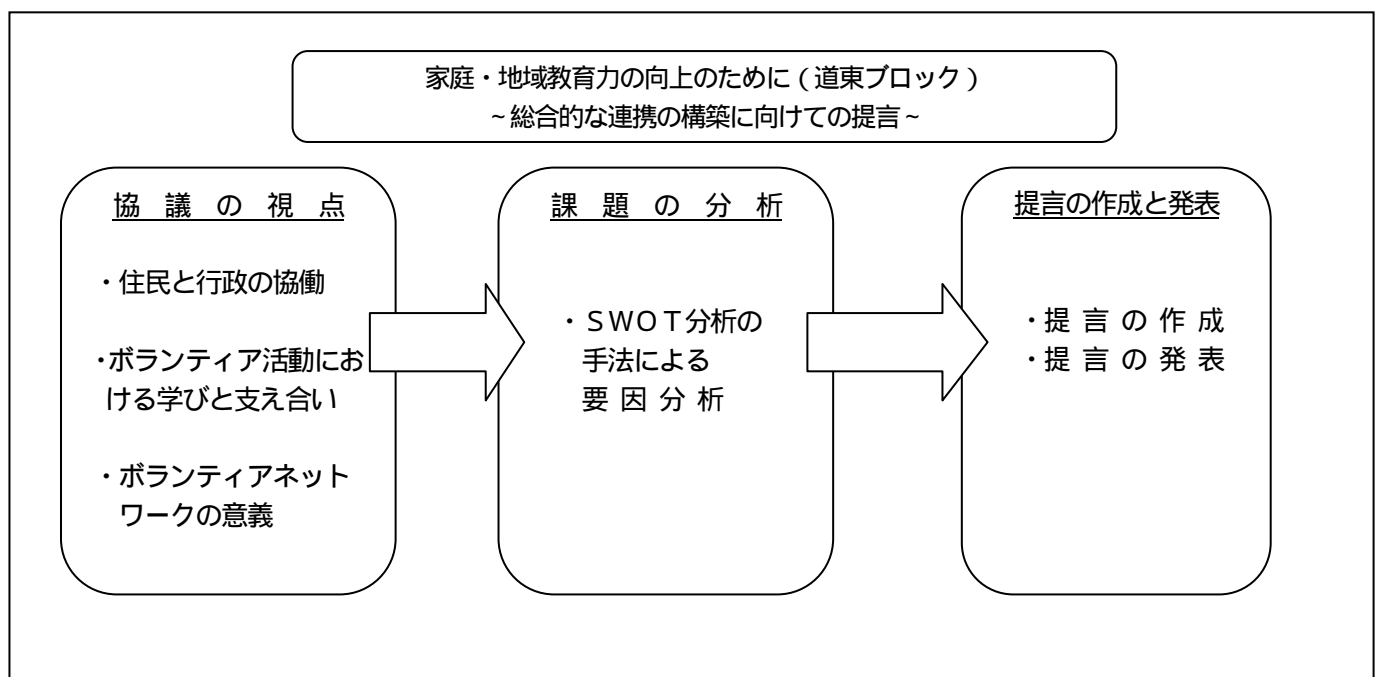
1 日程

期 日	場 所	内 容 (講師名)
7月12日(火)	釧路教育研究センター	<p>(1) 説明1「研究協議会の持ち方について」 説明者 釧路教育局社会教育指導班主査 澤田石 礼二郎</p> <p>説明2「北の大地 子ども未来づくり北海道計画」の概要 説明者 釧路保健福祉事務所保健福祉部子ども・保健推進課 子ども未来係長 中川 琢也</p> <p>(2) 基調講義「1人じゃできない - 地域ネットワークから生まれる新しい力」 講師 ボランティアネットワーク・チャレンジ隊 佐竹直子 氏</p> <p>(3) 事例研究(グループ協議) 4つのグループに分かれての自己紹介、意見交換、協議</p>
10月18日(火)	釧路教育研究センター	<p>(1)説明「研究協議の進め方について」 説明者 釧路教育局社会教育指導班主査 澤田石 礼二郎</p> <p>(2)グループワーク 「SWOT分析を用いた課題・方策についての協議」</p>
12月6日(火)	釧路教育研究センター	<p>(1)説明「前回までの研究協議の概要及び今回の進め方について」 説明者 釧路教育局社会教育指導班主査 澤田石 礼二郎</p> <p>(2)グループワーク 「持ち寄った提言カードにもとづく協議及び発表準備」</p> <p>(3)全体協議 「各グループによる提言の発表」 「研究協議の総括」</p>

2 協議会メンバー

氏名	市町村名	所属	氏名	市町村名	所属
吉田 義征	女満別町	女満別町地域子ども教室 事業実行委員会	阿部 皎	帯広市	NPO法人 すきっぱ (市民協働プラットフォーム)
鹿野 能準	斜里町	斜里町教育委員会	三浦 博哉	厚岸町	厚岸町教育委員会
山下 正恵	東藻琴村	東藻琴村教育委員会	伊藤 正明	標茶町	標茶町教育委員会
岩永 雅浩	網走市	網走市教育委員会	佐々木 俊司	釧路町	釧路町立富原小学校 おやじの会
小中 美喜夫	女満別町	北海道網走養護学校PTA	金澤 三恵子	弟子屈町	弟子屈町社会福祉協議会
西舘 喜代子	留辺蘂町	よみきかせ会 “あのね”	日置 真世	釧路市	NPO法人 地域生活支援 ネットワークサロン
田中 淑子	美幌町	美幌町ブックスタートボラン ティアの会	菅原 友実	釧路市	釧路市立愛国小学校PTA
太田 忠雄	清水町	清水の子どもにこにこプラ ン実行委員会	林 良彦	標津町	標津町教育委員会
安ヶ平 宗重	清水町	清水の子どもにこにこプラ ン実行委員会	餅崎 幸寛	根室市	根室市教育委員会
久司 広志	本別町	本別町教育委員会	本山 雅士	根室市	根室市花咲小学校PTA
伊藤 啓二	足寄町	足寄町教育委員会	松実 とよ実	中標津町	子育てコミュニケーションスパー スるるる
山岸 嘉平	浦幌町	十勝管内PTA連合会	對馬 由美子	羅臼町	子育て支援サークル すまいる
正村 紀美子	芽室町	NPO法人子育てネットワー クとかち			

3 協議会コンセプト



4 グループ協議の内容

7月12日(火)(1回目)

3回にわたる研究協議の概要説明、基調講義、事例研究を行った。その概要は次のとおり。

事業概要の説明	家庭・地域の教育力を高めるための、具体的・実践的な方策を、協議し提言としてまとめ、発表することを確認した。
基調講義	意欲のある人を地域の中から見出し、地域ネットワークを築くことの重要性を、実践をもとに指摘した。
事例研究	各参加者が、家庭・地域の教育力向上をテーマとして、実践に関する情報交換や、実践上の課題等についての研究協議を行った。



10月18日(火)(2回目)

SWOT分析の手法により、家庭・地域教育力向上をめぐる諸要因を把握した。分析結果の概要は、次のとおり。

	強み(S)	弱み(W)
内部環境 要 因	<ul style="list-style-type: none"> ・連携 ・ネットワーク ・人 	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ ・組織の担い手 ・資金 ・場
	機会(O)	脅威(T)
外部環境 要 因	<ul style="list-style-type: none"> ・協力 ・情報とネットワーク ・支援・協力・ボランティア 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者 ・外部からの評価 ・地域の崩壊 ・教育



12月6日(火)(3回目)

各グループによる提言の発表を行った。提言の概要は、次のとおり。

	タイトル	概 要
A	話・輪・和の地域再生プラン	教育委員会が中心となり、地域の人材や団体のネットワーク化を図り、学校や地域の活動を支援する。
B	近所のお知り合いプロジェクト	地域が一丸となって子どもたちを育むしくみをつくり、スタンプラリー、地域菜園、ミニ里親などの活動に取り組む。
C	防犯安全マップづくりを通じたネットワークづくり	安全、安心なまちづくりのため、防犯安全マップづくりに取り組み、その過程で地域課題を共有し地域ネットワークをつくる。
D	P T A 改造計画!	P T A 活動を見直し、家庭や地域の教育力向上を図る中核的な組織として、異世代交流、地域を創造する人材育成などに取り組む。



タイトル 『話・輪・和の地域再生プラン』

話し合い、輪になり、和やかに

（なぜ、その取組が必要なのか）

今、地域の人たちを知らない。

今、いろんな団体・サークル等があるが、それぞれで活動し、連携がない。

地域の教育力が低下はしているのか？



地域の教育力を見つけ出すことができなく、また、活動が停滞しているのではないか。

（その取組の実現のために必要なもの(こと)は何か）

社会教育係が中心となり

小学校の町内会

ボランティア団体・サークル(子どもたちの活動を支援する)

社会教育関係団体(青年団・女性団体・PTA・高齢者大学・子ども会育成会等)だけでなく、社会福祉協議会や防犯協会など

の子どもたちに対する活動を住民に情報を流す。また、それぞれの団体等が一堂に会し(年1回以上)活動を交流し、ネットワーク化を図る。さらに、それぞれの地域の人材を再発掘し、人材等の地域の教育力をもう一度見直す。

地域の人材をまとめ、学校支援ボランティアや子どもの活動に対して人材を派遣する。

（その取組により、どんな効果が期待されるか）

地域で地域を知る機会となる。

学校支援ボランティアや子どもたちの活動に地域の人材が活動することにより、それぞれの地域で子どもと大人の顔がわかり、子どもたちの安全の確保につながる。

地域で子どもたちを育てるという意識から、それぞれの家庭にも目が向く。

Bグループ提言

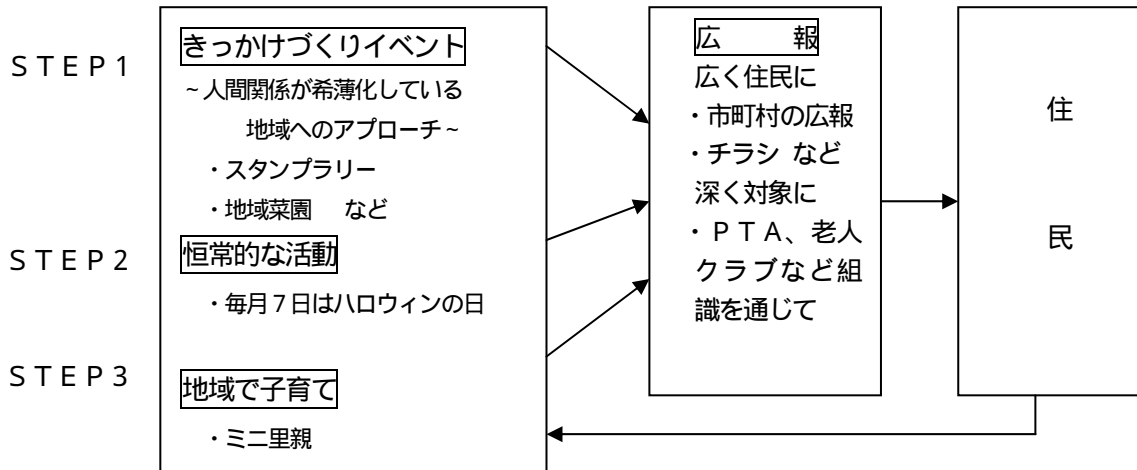
タイトル 『近所のお知り合いプロジェクト』

(目的) 地域が一丸となって子どもたちを育む仕組みづくり

(コンセプト)

ステップアップ ~ 出会いづくりからミニ里親へ ~
いろいろな人を巻き込む ~ 熟年層や父親など ~

(内容)



*スタンプラリー ~ 町内のスタンプラリーをする。お店などはもちろん、地域の一般にお宅にも協力をしてもらって、地域に住んでいる人たちの交流の機会を楽しい企画によって実施する。

*地域菜園 ~ 地域の土地に菜園を作る。できた作物は売ったり、その食材を利用した料理を作ったり多様な展開をする。子どもたちへの体験の広がり、食育にもなり、大人の啓発にもつながる。

*ハロウィンの日 ~ 毎月1回地域の子ども同士でグループを作り(子ども会など)近隣の住民の家にお菓子をもらいに歩き回る。(地域に住む子どもと住民の顔を覚えてもらう)

*ミニ里親 ~ 下校後、家で一人で過ごす児童のために、保護者が帰るまで近隣の子どもを持たない住民が子どもを預かる。その時間の中で、窓拭き、買い物や料理の手伝いなどのボランティア的な活動をする。(先輩親の子育てやしつけなど、子どもを通じて親が教わる)

(推進体制) 実行委員会の組織化または既存の組織をつないだネットワーク組織による推進

(課題) 地域、人、組織をつなぐコーディネート機能

(期待される効果)

- ・ 地域ぐるみで子どもを育む意識の高揚
- ・ 子育ての先輩との関わりを通じた家庭の教育力の向上

タイトル『防犯安全マップづくりを通したネットワークづくり』

〈なぜその取組が必要なのか〉

- 地域のつながりが希薄化している
- 不審者が出没している
- 生活圏に盲点がある
- 交通事故の危険がある
- 高齢者の視点に立つ

〈その取組の実現のために必要なもの(こと)は何か〉

- 子どもの視点に立つこと
- 人、団体、行政が集まるように呼び掛けること
- コーディネーターを養成すること

<コーディネーターの資質>

- 人と人を繋げられる
- 第三者的な立場である
- 地域をよく知っている
- 情報を整理できる

〈その取組によりどんな効果が期待されるか〉

- 安全、安心なまちづくりにつながる
- マップづくりをしていく過程で地域課題を共有することができる

タイトル 『 P T A 改造計画！ 』

《 目 的 》 家庭や地域で育てられる子どもについて、本音で語り本気で取り組める場や機会が少ないことから、家庭・学校・地域の懸け橋役としてのP T A活動を再度見直し、家庭や地域の教育力の向上を図る中核的な役割を果たすことを期待する。

《 内 容 》 P T Aの果たすべき役割の再確認
地域課題の共通認識
情報の共有化
研修機会の充実

《 期待される効果 》
親が家庭教育を見直す機会となる
学校教育を支える礎となる
家庭同士のつながりがもてる
地域が一体となるきっかけづくりとなる

《 具体的な取組 》
異世代交流（子どもからお年寄り）の企画・運営
子育て中の親と子育てを終えた人との井戸端会議の企画・運営
放課後や休日を利用した体験・交流活動の企画・運営
地域を創造する人材の育成
短期（緊急）的取組：「大人」の役割を考える講座の開催
長 期 的 取 組：子どもの発達段階に応じた体系的な取組
（基本的生活習慣、情緒、文化・スポーツ等体験活動、性の学習等）

《 課 題 》 学校側の理解と協力体制（開かれた学校づくりとの兼ね合い）
P T A役員及び会員の自覚（父親の積極的参加等）
コーディネーター

5 まとめ

家庭・地域教育力向上研究協議会（道東ブロック） <まとめ>

1 成果 道東ブロックという広域を対象とした実情・実践の交流や課題の共有ができた。

本研究協議会は、道東4管内の22市町村から25名の家庭・地域の教育力向上に関わる実践者らが集まり、各地域の実情や実践に関する情報交換を行うと共に、直面する課題を参加者の間で共有し、協議することができた。

その結果、各地域では、子どもを心豊かに育てるため、様々な実践が行われているが、行政と住民との連携、行政内部の横断的連携、コーディネーターの必要性、人材育成等、各地域に共通する課題があることが明らかになった。

2 成果 家庭・地域の教育力の向上のための具体的提言をまとめることができた。

25名の参加者は、4つのグループに分かれ、3回にわたる研究協議の中で、実践交流と現状分析を行い、それらを踏まえて家庭・地域の教育力を向上させるための方策を、具体的な提言としてまとめることができた。

その提言内容は、教育委員会を核とした地域ネットワークの構築、地域が一丸となって子どもたちを育む仕組みづくり、防犯安全マップづくりを通じたネットワークづくり、家庭・地域の教育力向上のための中核的機能を目指したPTA組織の見直しといった、現状を踏まえ、家庭・地域が直面する課題の解決のための、具体的提案となっている。

3 課題 まとめられた提言の周知を図り、実践を促すことが必要である。

今回の研究協議の成果としてまとめられた提言内容を、参加者及びその所属先のみにととめることなく、ホームページでの公開等により、多くの人々への周知を図るとともに、各地域において積極的に取り組まれるよう、実践を促すことが必要である。そのため、各管内の社会教育主事や社会教育委員を対象とした研修会等において、各教育局の社会教育指導班から情報提供や実践に向けた支援が必要である。